

新指導者資格制度についての解説

はじめに

専門的なスポーツ指導者の社会的な需要に伴い、各競技団体の資格制度によって、その専門性を磨き、さらに社会に対して指導者の質を保証する必要性が年々高まっております。JRFUの指導者資格制度も現行の制度がはじまり10年以上が経過しております。普及育成委員会コーチング部門としては、これまで以上に全国のラグビー指導者の皆様が、我が国ラグビー振興の中核として活躍されることをサポートできるよう、現行の指導者資格制度について見直しさせていただくこととなりました。

1. 改定の意図 2
 - 1) 旧資格制度（現行資格）について
 - ①日本ラグビーの環境の変化からくる旧資格制度の課題
 - 2) 新資格制度の基本的な考え方
2. 改定事項 3
 - 1) 新資区分・名称
 - 2) 講習会カリキュラム内容
 - 3) 資格ごとの詳細
 - ①スタートコーチ
 - ②C級コーチ **【新設】**
 - ③B級コーチ（旧育成コーチ）
 - ④A級コーチ（旧強化コーチ）
 - ⑤S級コーチ
 - 4) 資格更新方法について
 - 5) 日本スポーツ協会指導者制度の変更点について
 - 6) 資格保有の義務化について
3. 旧資格制度からの移行について 11
 - 1) スタートコーチの移行について
 - 2) 育成コーチの移行について
 - 3) 強化コーチの移行について
 - 4) トップチームコーチの移行について
 - 5) S級コーチへの移行対象者について
 - 6) その他の特記事項

1. 改定の意図

1) 旧資格制度（現行資格）について

現行の資格制度は2007年度より導入されました。当時はスポーツ指導者が資格を取得するという意識の醸成から構築する必要があった時代背景もあり、主にすでに指導に当たられている方々を対象として資格を取得していただく制度として運用をはじめました。また資格は積み上げ式ではなく、ご本人の指導カテゴリーに合わせた資格を取得していただく制度でした。

①日本ラグビーの環境の変化からくる旧資格制度の課題

昨今のスポーツ界では指導者の体罰問題等を背景として、インテグリティの遵守、安全対策等が注目され、高い専門知識を持ったスポーツ指導者の社会的な需要がこれまで以上に高まっています。またラグビー界では、大学やトップチームの普及活動への意識の向上などもあり指導カテゴリーを超えた指導の交流が積極的に行われています。さらに近年の有資格者の方々は資格制度による指導能力向上への意欲が高い方々も増えています。こうした日本ラグビーの状況の変化を考えると、下記の点が現行の資格制度の課題として上がってきました。

現行資格の課題

- ◆スタートコーチ資格の内容が指導経験者向けである。
- ◆スタートコーチ資格のカリキュラムが座学と実技を伴う6時間の内容であり、都道府県協会での施設の確保が難しく開催回数の増加が見込めず、地域によっては資格取得の需要に対して、講習会の供給が不足している。
- ◆スタートコーチ資格の次のステップとなる資格が日本スポーツ協会と連動した育成・強化コーチ資格であり、講習会受講について時間的、金銭的なハードルが高い。それによりスタートコーチ資格の取得で指導者の学びがストップしている方が多い。
- ◆強化コーチ資格は三支部協会の推薦もしくはJRFUの推薦が必要となり受講の機会が得にくい。
- ◆資格名称の「育成」「強化」「トップ」という表現の受け取り方に個人差がある。
- ◆資格制度が積み上げ式ではないので、向上心を持った指導者の方のステップアップのニーズに対応できていない。
- ◆トップチームコーチ資格はトップリーグの指導者もしくはJRFU推薦者しか受講できない。
- ◆トップチームコーチ資格はトップリーグまたは代表強化の指導期間だけ有効な資格であり、グラスルーツの指導現場に関わる際には無資格者となるケースがある。

2) 新資格制度の基本的考え方

新資格制度は、現行資格の課題の改善、さらにコーチング部門のアクションプラン、さらに下記に記載した改訂の大きな意図を含めて決定しました。

改定の大きな意図

- ・安全対策の充実
- ・指導者のインテグリティ保持
- ・段階的な指導技能の向上

コーチング部門のアクションプラン

- ・安全対策を理解した指導者の育成
- ・プレーヤーズセンタードコーチングの徹底
- ・グローバルな視点とコーチングスキルを持った指導者の育成
- ・自ら考え、課題を解決し、成長を続けられるプレーヤーを育成できる指導者の養成

行動目標

- ・有資格者を増やす【資格制度の改訂 / 数値的目標 約 7,000 人（～2018 年）→約 10,000 人へ】
※競技人口 20 万人とする JRFU 戦略計画からプレーヤー 20 人に 1 人の有資格者を配置できるように算出。
- ・資格更新率を高める【更新方法の改訂 / 数値的目標 更新率 57%（～2018 年）→80%へ】
- ・指導者の質を高める【他のスポーツ関連団体との方針の共有 / 情報発信の強化】
- ・有資格の活躍の場を作る【有資格者の積極的な活用 / 資格保有の義務化】

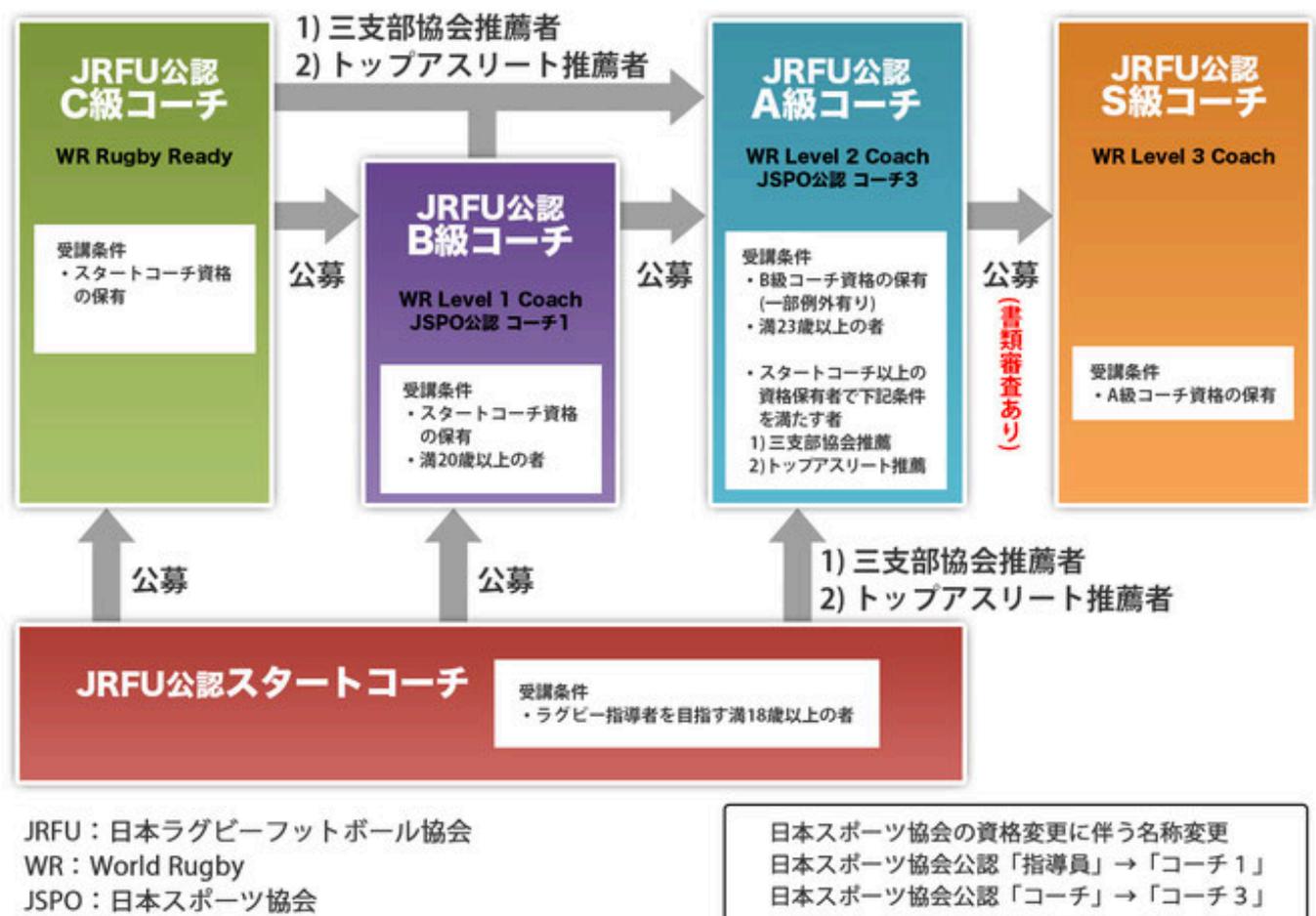
基本方針	施策・数値目標	取組
1 資格保有者を増やします 	①有資格者数を10,000人に増やします <実績7,079人/2018年> 全体 目標:1万人	【資格制度全体の見直し】 ・無理のないステップを踏める制度へ、積み上げ式に変更。C級コーチの創設。自己推薦でのステップアップ(受講条件の緩和) 【スタートコーチの内容変更】 ・無資格者ゼロへ(時間の短縮→開催回数の増加) 【C級コーチの創設】 ・スタートコーチから次のステップへ。継続的な学びの環境の整備。 【S級コーチの創設】 ・最上位資格の明確化。 【資格取得に向けた環境整備】 ・講習会の少ない地域や、運営体力のない地域については、三支部協会、日本ラグビー協会がサポートし、地域の活性化を図ります。 ・講習会の件数を増やすために、ラグビー関連団体(大学チーム、トップリーグチーム、その他)と連携を図ります。 【情報発信の充実】 ・情報発信の拠点となるコーチネットの充実を図ります。またSNS等を活用した情報発信を行います。
	②資格更新対象者の更新率を80%に高めます。 <実績57%> 更新率 80%	【オンラインブラッシュアップの導入】 ・スタートコーチとC級コーチで導入 【コーチカンファレンスの開催】 ・B級コーチ以上を対象とした講習会を三支部協会で開催 【既存の講習会の活用】 ・安全・インテグリティ推進講習会・学会等
2 指導者の質を高めます 	①学びを継続できる環境を整備します 	【積み上げ式の資格制度への変更】 ・所属やプレーヤーのキャリア、地域協会からの推薦の有無に関わらず、全ての希望者がステップアップできる制度にします。 【地域協会、三支部協会、日本ラグビー協会の連携の強化】 ・講習会の少ない地域や、運営体力のない地域については、三支部協会、日本ラグビー協会がサポートし、地域の活性化を図ります。 【講習会の数・機会の拡大】 ・講習会の件数を増やすために、ラグビー関連団体(大学チーム、トップリーグチーム、その他)と連携を図ります。 ・学会などを積極的に認定し、ブラッシュアップ講習会の機会の創設を行います。
	②情報提供の充実	【コーチネット情報の提供】 ・情報発信の拠点となるコーチネットの充実を図ります。またSNS等を活用した情報発信を行います。
3 公認指導者資格者の活躍の場を作ります 	①有資格者の活躍の機会を創設します 	【有資格者の情報の提供】 ・講習会の情報発信や有資格者の活躍をホームページ等で広く周知します。 【他部門との連携】 ・JRFUの他部門と連携を図り、大会等への資格の義務化や、有資格者の積極的に登用を促します。

カリキュラムの基本的な考え方

- ・(公財) 日本スポーツ協会指導者資格制度、WR コーチング資格制度と資格連動を図る。
- ・資格を積み上げ式に変更し、継続的な指導技能の向上を図る。
- ・カリキュラム策定にあたっては、文部科学省「グッドコーチに向けた7つの提言」(平成 27 年)、(公財) 日本オリンピック委員会「アスリート・アントラージュの連携協力推進」(平成 28 年)、(公財) 日本スポーツ協会「コーチ育成のためのモデルコアカリキュラム」(平成 28 年)、International Council for Coaching Excellence モデルカリキュラムの内容を踏まえる。

2. 新資格区分・名称

新しい制度は積み上げ式に変更されます。チームの属性にかかわらず、どなたでもS級コーチにチャレンジできる制度となります。積み上げ式への変更に伴い資格名称をアルファベットに変更します。上位資格を明確に表現することで指導者の方に継続的な学びへの意欲を持っていただくことも狙いとしています。資格ごとの特徴としては、スタートコーチのこれまでの講習時間を6時間から4時間に短縮し、開催回数が増加できる内容としました。新設されるC級コーチは、スタートコーチの時間短縮の補完、また既存のスタートコーチ保有者の次の簡易なステップとして設けました。B級コーチはこれまでと同様の講習内容となります。A級コーチについては参加条件が変更されました。これまでと同様の都道府県協会からの推薦枠に加えて、トップアスリート推薦枠、自己推薦枠を設けました。トップチームコーチ資格は廃止し、S級コーチを新設します。S級コーチの参加条件はA級コーチ保有者となります。これによりトップチームコーチ資格保有者の資格停止の問題を改善できるようになります。



主な変更点

(1) 積み上げ式制度への変更、(2) 資格名称変更、(3) 他のスポーツ関連連団との連携を視野に入れた講習カリキュラムの導入、(4) 資格受講条件の変更、(5) C級コーチの新設、(6) トップチームコーチ資格の廃止、(7) S級コーチの新設

3) 講習会カリキュラム内容

スタートコーチ	概要	日本でラグビー指導者として活動するすべての方を対象としています。ラグビー指導者の入口として必要なJRFUの安全対策に関する知識及び指導者としての基本を座学により習得します。
	カリキュラム	JRFUの指導者育成方針/安全対策/インテグリティの保持/プレーヤーを中心にした指導/ラグビー憲章/プレーの原則/年代別指導方法
C級コーチ	概要	個人のプレーヤーに対する実技指導の能力を習得します。スタートコーチの内容を実技を通して実践的に深める内容です。WRのオンライン学習コンテンツであるRugby Readyを受講義務としてWRの指導のフレームを用いています。
	カリキュラム	ラグビーの準備(リスクマネジメント)/JOCアントラージュプログラム/プレーの原則とスキルへの適用の理解/長期育成方針/個人を対象としたコーチングの手法
B級コーチ	概要	個人のプレーヤーに対する指導に加え、チームの課題に即した指導をする為の技能を座学と実技とを通して習得します。WRレベル1カリキュラムを用いています。
	カリキュラム	プレーヤーウェルフェア①/プレーの原則を用いたチーム分析/練習計画の策定①/キープファクター分析①/コーチングフィロソフィー/コアバリュー/セブンス基礎/ラグビーのS&C①/その他 ※日本スポーツ協会科目Ⅰ
A級コーチ	概要	多様な視点からプレーヤーとチームを分析し、指導計画を作成する技能を座学と実技を通して習得します。WRレベル2カリキュラムを用いています。
	カリキュラム	プレーヤーウェルフェア②/チーム分析(主観分析・客観分析)/練習計画の策定②/キープファクター分析②/機能的役割分析(ファンクショナルロール)/ポジションの役割/シーズン計画/セブンス基礎/ラグビーのS&C②/その他 ※日本スポーツ協会科目Ⅲ
S級コーチ	概要	年間計画、チーム戦略、戦術、チームマネジメントなど、チームを指導する為のすべての知識・技能を座学と実技を通して習得します。WRレベル3カリキュラムを用いています。
	カリキュラム	コーチとしての自己分析/チームビジョンの作成/プレーヤーの分析/チーム/ゲームプロフィール/プレーパターン/分析からのゲームプラン/クリティカルインシデント分析(ゲームの重大要因分析)/シーズンプランニング/チームマネジメント

4) 講習会詳細

①スタートコーチ

カリキュラム	日本でラグビー指導者として活動するすべての方を対象としています。ラグビー指導者の入口として必要なJRFUの安全対策に関する知識及び指導者としての基本を座学により習得します。
	JRFUの指導者育成方針/安全対策/インテグリティの保持/プレーヤーを中心にした指導/ラグビー憲章/プレーの原則/年代別指導方法
時間	4時間
受講条件	年齢: 満18歳以上
受講料	3,000円
開催頻度(年間)	全国50回程度
受講可能人数(年間)	合計1,500名(1会場30名程度の50回) ※先着順
資格保有期間	4年間
資格更新方法	オンラインブラッシュアップ/都道府県協会ブラッシュアップ研修会/その他
主催	(公財)日本ラグビーフットボール協会
主管	都道府県ラグビー協会

◆講師条件

- ・ A 級コーチ/謝金：15,000 円（助手 3,000 円）

◆変更点

- ・ 講習時間の変更：6 時間→4 時間へ
- ・ 講習内容の変更：座学及び実技→座学
- ・ 資格付与年齢条件の変更: 満 20 歳→満 18 歳へ

◆変更の意図

- ・ 開催回数増加（無資格者をゼロへ）
- ・ 安全対策とプレーヤーズセンタードコーチングの徹底/インテグリティの徹底

②C 級コーチ 【新設】

カリキュラム	個人のプレーヤーに対する実技指導の能力を習得します。スタートコーチの内容を実技を通して実践的に深める内容です。WRのオンライン学習コンテンツであるRugby Readyを受講義務としてWRの指導のフレームを用いて行います。 ラグビーの準備(リスクマネジメント)/JOCアントラージュプログラム/プレーの原則とスキルへの適用の理解/長期育成方針/個人を対象としたコーチングの手法
時間	合計10時間(集合8時間/通信2時間)
受講条件	年齢:満18歳以上 /スタートコーチ資格保有者
受講料	8,000円
開催頻度(年間)	全国12回程度
受講可能人数(年間)	合計240名(1会場20名程度の12回) ※先着順
World Rugby運動資格	World Rugby Rugby Ready
資格保有期間	4年間
資格更新方法	オンラインブラッシュアップ/都道府県協会ブラッシュアップ研修会/その他
主催/主管	(公財)日本ラグビーフットボール協会

◆講師条件

- ・ A 級コーチ/謝金：30,000 円

◆新設の意図

- ・ スタートコーチの講習会時間短縮の補完
- ・ スタートコーチからのレベルアップの機会の創設

③B 級コーチ (旧育成コーチ)

カリキュラム	個人のプレーヤーに対する指導に加え、チームの課題に即した指導をする為の技能を座学と実技とを通して習得します。WRレベル1カリキュラムを用いて行います。 プレーヤーウェルフェア①/プレーの原則を用いたチーム分析/練習計画の策定①/キープファクター分析①/コーチングフィロソフィー/コアバリュー/セブンズ基礎/ラグビーのS&C①/その他 ※日本スポーツ協会科目 I
時間	合計105時間 ラグビー専門科目 合計60時間【集合30時間「3日間または4日間」/通信30時間】 JSPO共通科目 I 合計45時間【通信45時間】
受講条件	年齢:20歳以上の方 1)スタートコーチ資格保有者
受講料	合計34,920円 ※宿泊費、交通費は含まれません。 ラグビー専門科目:15,120円(税込)JSPO共通科目:19,800円(税込) ※教材費別途 3,000円(予定)
開催頻度(年間)	全国4回/年間(九州地区、関西地区、関東地区、東北地区)
受講可能人数(年間)	合計150名(1会場35名程度の4会場) ※先着順
日本スポーツ協会運動資格	JSPO公認ラグビーフットボール「コーチ1」
World Rugby運動資格	World Rugbyレベル1
資格保有期間	4年間
資格更新方法	コーチカンファレンス/都道府県協会ブラッシュアップ研修会/JSPO研修会/その他
主催/主管	(公財)日本スポーツ協会 (公財)日本ラグビーフットボール協会

◆講師条件

- ・ 日本スポーツ協会規定に基づく (原則 A 級コーチ) /謝金：日本スポーツ協会規定に基づく

◆変更点

- ・ 日本スポーツ協会資格名称の変更:「指導員」→「コーチ1」

④A 級コーチ（旧強化コーチ）

カリキュラム	多様な視点からプレーヤーとチームを分析し、指導計画を作成する技能を座学と実技を通して習得します。WRレベル2カリキュラムを用いて行います。 プレーヤーウェルフェア②/チーム分析(主観分析・客観分析)/練習計画の策定②/キープファクター分析②/機能的役割分析(ファンクショナルロール)/ポジションの役割/シーズン計画/セブンス基礎/ラグビーのS&C②/その他 ※日本スポーツ協会科目Ⅲ
時間	合計230時間 ラグビー専門科目 合計80時間【集合44時間「5日間」/通信36時間】 JSP0共通科目Ⅲ 合計150時間【集合30時間「5日間」/通信120時間】
受講条件	年齢：満23歳以上の方 1)自己推薦者(B級コーチ資格保有者) 2)三支部協会推薦者(スタートコーチ以上の資格保有者) 3)トップアスリート推薦者(スタートコーチ以上の資格保有者) ・日本代表キャップホルダー(男女/7人制・15人制) ・トップリーグ30試合以上出場者 ・トップリーグチーム推薦者(1年に1名) ・JRFU技術委員会推薦者 ※推薦できるトップリーグチームは開催年度のトップリーグチームとする。
受講料	合計30,240円 ※宿泊費、交通費は含まれません。 ラグビー専門科目：10,800円(税込)JSP0共通科目：19,440円(税込) ※教材費別途 3,000円(予定)
開催頻度(年間)	全国4回(九州地区、関西地区、関東地区2回)
受講可能人数(年間)	合計160名(1会場40名程度の4会場)/年間 1)B級コーチ自己推薦者(合計30名程度)※先着順 2)三支部協会推薦者(合計90 各会場30名)※三支部協会で調整 3)トップアスリート推薦者 30名程度 ※先着順
日本スポーツ協会連動資格	JSP0公認ラグビーフットボール「コーチ3」
World Rugby連動資格	World Rugbyレベル2
資格保有期間	4年間
資格更新方法	コーチカンファレンス/都道府県協会ブラッシュアップ研修会/JSP0研修会/その他
主催/主管	(公財)日本スポーツ協会 (公財)日本ラグビーフットボール協会

◆講師条件

- ・日本スポーツ協会規定に基づく(原則A級コーチ)/謝金：日本スポーツ協会規定に基づく

◆変更点

- ・受講条件の緩和：自己推薦枠・トップアスリート推薦枠の追加
- ・日本スポーツ協会資格名称の変更：「コーチ」→「コーチ3」

⑤S 級コーチ

カリキュラム	年間計画、チーム戦略、戦術、チームマネージメントなど、チームを指導する為のすべての知識・技能を座学と実技を通して習得します。WRレベル3カリキュラムを用いて行います。 コーチとしての自己分析/チームビジョンの作成/プレーヤーの分析/チーム/ゲームプロフィール/プレーパターン/分析からのゲームプラン/クリティカルインシデント分析(ゲームの重大要因分析)/シーズンプランニング/チームマネージメント
時間	160時間(集合60時間「3日間を2回」/通信100時間)
受講条件	A級コーチ資格保有者(JSP0公認ラグビーフットボール「コーチ3」) 1)指導経験が4年以上ある方(望ましい) 2)定期的に関わる高校生以上の指導現場がある方
受講料	50,000円 ※宿泊費、交通費は含まれません。
開催頻度(年間)	全国1回/年間 ※書類選考により受講者を決定
受講可能人数(年間)	合計 20名程度
World Rugby連動資格	World Rugbyレベル3
資格保有期間	1年間
資格更新方法	コーチカンファレンス/その他
主催/主管	(公財)日本ラグビーフットボール協会

◆講師条件

- ・S級コーチ/謝金：World Rugby 規定に基づく

◆新設の意図

- ・トップチームコーチ資格廃止に伴う新資格

4) 資格更新方法について

今回の改訂においては資格更新率の向上を目指し、資格更新方法についても変更があります。下記の記載するどれかの方法で更新を行ってください。



JRFU：日本ラグビーフットボール協会 WR：World Rugby JSPO：日本スポーツ協会

◆変更点

- ・スタートコーチ及びC級コーチのオンラインブラッシュアップの導入
- ・スタートコーチ及びC級コーチの講習時間の短縮：3時間→2時間
(2時間になることで安全・インテグリティ推進講習会もブラッシュアップ対象となる)
- ・トップチーム会議をコーチカンファレンスへ変更し、B級コーチ以上から参加できる講習会とする。(2019年度は3支部協会により参加条件は異なる)

5) 日本スポーツ協会指導者制度の変更点について

2019年度より（公財）日本スポーツ協会の資格制度も変更となります。

主な変更点

- ・ 名称の変更
- ・ 教員免許状（保健体育）による共通科目集合講習会免除の廃止
- ・ 共通科目の一部免除の廃止
- ・ 共通科目の実施形態にインターネット環境を必要とした事前事後学習の導入

SPORT 公認スポーツ指導者制度の改定(2019年4月1日)に伴う一部資格名称の変更について

これまで本誌でもお知らせしてきた通り、2019年4月1日(月)から現行の公認スポーツ指導者制度を改定施行します。改定に関する詳細は本誌の次号以降や日本スポーツ協会ホームページなどでも順次掲載する予定ですが、今号では、すでに公認スポーツ指導者資格を保有している方に関わりのある内容についてお知らせします。

■一部の資格名称が変わります
競技別指導者資格(教師・上級教師を除く)の名称が下記の通り変わります。
※その他の資格については、変更はありません。

現行	改定後(2019年4月1日～)
指導員	コーチ1
上級指導員	コーチ2
コーチ	コーチ3
上級コーチ	コーチ4

例)

陸上競技指導員	陸上競技コーチ1
テニスコーチ	テニスコーチ3

●登録証の切り替えについて
新たな資格名称での登録証の発行は2019年4月1日付登録・更新手続きから順次、それぞれの資格更新手続きに併せて行います。
現行の資格名称の登録証は、有効期限まで変わらずお使いいただけます。
更新手続き以外での登録証の発行については、有料での対応となります。ご希望の方は、本ページ最下部に記載の公認スポーツ指導者登録係(TEL:03-5148-1763)または「指導者マイページ」内のメニューの「お問い合わせ」からご連絡ください。

●指導者マイページの表記変更について
指導者マイページに表記されている資格名称は、4月上旬ごろから新名称に切り替わります。
指導者マイページ内のオリジナル名刺作成サービスも同時に新名称に切り替わります。
※すでに現行の名称で作成された名刺は2019年4月以降もお使いいただけますが、順次、新名称の名称に変更いただくよう協力をお願いします。

●その他
資格名称の変更に伴って、指導者の皆さまに行っていた手続きや追加の講習会などはありません。

■制度改定のロードマップ(参考)

	2018年度	2019年度	2020年度
資格名称	現行名称	新名称	
共通科目I	現行カリキュラムによる選修講座		MCC*にもとづく新カリキュラムによる選修講座
共通科目II~IV	現行カリキュラムによる集合講習会	MCC*にもとづく新カリキュラムによるアクティブ・ラーニング形態の集合講習会	

*モデルコアカリキュラム(MCC)とは「グッドプレーヤーを育成するクラブコーチ」に求められる基本的資力とそれらをつくるために必要なカリキュラム、資力能力を「人間力」と「知識・技能」に大別し、人間力を養うための内容がカリキュラム総時間全体の34%(63時間)を占めています。

一部資格名称の変更に関するお問い合わせはこちら

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者登録係
TEL 03-5148-1763
(平日10:00~17:00、土・日・祝日・年末年始を除く)

公認スポーツ指導者マイページにログイン
⇒ 上部メニューの「お問い合わせ」
⇒ <https://my.japan-sports.or.jp/>



日本ラグビーフットボール協会公認 「育成コーチ」(新資格「B級コーチ」)

日本スポーツ協会公認ラグビーフットボール「指導員」 → 「コーチ1」

日本ラグビーフットボール協会公認 「強化コーチ」(新資格「A級コーチ」)

日本スポーツ協会公認ラグビーフットボール「コーチ」 → 「コーチ3」

6) 資格保有の義務化について

資格保有の義務についての下記のように変更します。尚、完全実施までに猶予期間を設けております。

1. 登録チームの指導者資格保有の義務

加盟チームは、**JRFU** 指導者資格（スタートコーチ資格以上）を有する指導者を監督またはコーチとして配置しなければならない。

2. 大会出場チームの指導者資格保有の義務

各大会へ出場するチームは、次の通り **JRFU** 指導者資格を有する指導者を監督またはコーチとして配置しなければならない。尚、完全実施までに猶予期間を設ける。

- ・ トップチャレンジリーグ、全国大学選手権：A 級コーチ資格以上（2022 年度から実施）
- ・ 日本協会主催の選抜チームによる全国大会：B 級コーチ資格以上（2020 年度から実施）
- ・ 日本協会、支部協会及び都道府県協会主催の小学生及び中学生を対象とした年齢別チームを編成し実施する大会：スタートコーチ資格以上（2020 年度から実施）
- ・ 国民スポーツ大会（旧国民体育大会）：（公財）日本スポーツ協会規定に則る。

3. 日本代表及びトップリーグチーム指導者の資格保有の義務

- ・ 日本代表及びトップリーグチームの監督もしくはヘッドコーチは、S 級コーチあるいは同等の資格を有していなければならない。
- ・ 日本代表及びトップリーグチームは、A 級コーチあるいは同等の資格を有する指導者をコーチとして配置しなければならない。

◆ 今回の改訂で追加された大会出場チームの資格保有の義務化に関する補足説明

- ・ トップチャレンジリーグ、全国大学選手権：A 級コーチ資格以上（2022 年度から実施）

説明：チームに 1 名以上の A 級コーチを配置してください。

- ・ 日本協会主催の選抜チームによる全国大会：B 級コーチ資格以上（2020 年度から実施）

説明：選抜チームとは都道府県代表チームを意味します。現在、日本協会主催の選抜チームによる大会は中学生のみで行われています。チームに 1 名以上の B 級コーチを配置してください。

- ・ 日本協会、支部協会及び都道府県協会主催の小学生及び中学生を対象とした年齢別チームを編成し実施する大会：スタートコーチ資格以上（2020 年度から実施）

説明：ラグビースクールでは年齢別にチームが編成されます。各チームごとに、それぞれ 1 名以上のスタートコーチを配置してください。

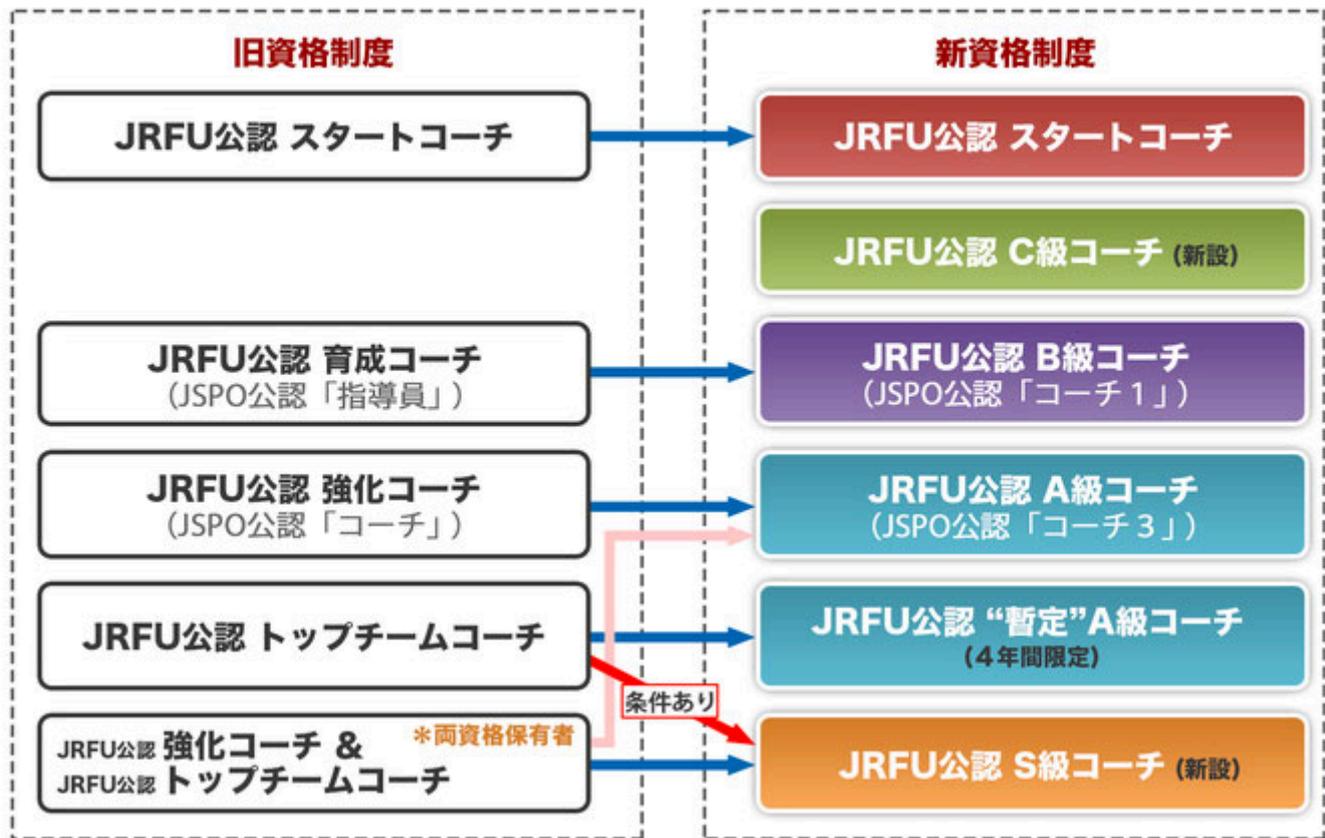
- ・ 国民スポーツ大会（旧国民体育大会）：（公財）日本スポーツ協会規定に則る。

説明：現在の日本スポーツ協会の規定では監督の義務資格が A 級コーチ（日本スポーツ協会公認ラグビーフットボール「コーチ 3」）となっています。

3. 旧資格からの移行について

有資格者の方は下記のように自動的に移行処置が行われます。(一部の方を除く)。

現行資格からの移行



JRFU：日本ラグビーフットボール協会 WR：World Rugby JSPO：日本スポーツ協会

資格別移行処置について

1) スタートコーチ→自動移行

資格の有効期限については移行前に取得した期日で引き継がれます。

2) 育成コーチ→B級コーチに自動移行

資格の有効期限については移行前に取得した期日で引き継がれます。

3) 強化コーチ→A級コーチに自動移行

資格の有効期限については移行前に取得した期日で引き継がれます。

4) トップチームコーチ資格保有者 (トップチームコーチ資格保有者は個人により移行処置が異なります。)

トップチームコーチ資格保有者 (WR レベル3 保持者) は、4年間は暫定的に日本ラグビーフットボール協会公認 A 級コーチとして自動的に登録します。2022 年度 (有効期限:2023 年 3 月 31 日) までに A 級コーチ講習会に参加し、

日本スポーツ協会の共通科目Ⅲを受講することでS級コーチとなります（ラグビーの専門科目は免除）。なお、4年以内に日本スポーツ協会の資格を取得しない場合は自動的にC級コーチ（有効期限：2024年3月31日）となります。

5) S級コーチへの移行対象者について

トップチームコーチ保有者もしくは強化コーチで下記の条件を満たす方はS級コーチに移行にできます。自動移行ではなく、ご本人からの申請で対応致します。申請方法についてはコーチネット（WEBサイト）よりお手続きください。

- ◆強化コーチとトップチームコーチ(World Rugby レベル3 保有者)の両方の資格を保有する者
- ◆トップチームコーチ(World Rugby レベル3 保有者)でトップリーグにおいて3年間以上ヘッドコーチを務めた経験のある者
- ◆トップチームコーチ(World Rugby レベル3 保有者)で日本ラグビーフットボール協会技術委員会 HP コーチング部門より推薦を受けた者

HP コーチング部門の推薦基準

- ・2014年度から2018年度の期間に日本代表の指導者として活動経験がある者（スポットコーチは含まない）
 - ・2014年度から2018年度の期間にジュニアジャパン/日本代表 A/U20 日本代表/U19 日本代表/U17 日本代表（このレベルに準ずるチーム/この基準に準ずる女子ナショナルチーム）のヘッドコーチ経験のある者
 - ・2014年以降にスーパーラグビー「サンウルブズ」の指導者として活動経験のある者（スポットコーチは含まない）
- ◆強化コーチで World Rugby レベル3 を持ち、日本ラグビーフットボール協会普及育成委員会コーチング部門より推薦を受けた者

日本ラグビーフットボール協会普及育成委員会コーチング部門より推薦基準

- ・強化コーチと WR エデュケーター資格をもち、World Rugby レベル3 の講師を務めた経験があり、コーチング部門より優れた指導力があると認められた者

6) その他の特記事項

◆トップリーグの指導に関する特記事項

World Rugby レベル3 保有者で今回の処置で暫定A級コーチとなる方々は、トップリーグチーム指導者の資格保有の義務であるS級コーチと同等の資格を有する者として、引き続き、トップリーグで監督もしくはヘッドコーチを務めることは問題ありません。

◆国民スポーツ大会（旧国民体育大会）の指導について特記事項

日本スポーツ大会の監督を務める者の規定が日本スポーツ協会ラグビーフットボール「コーチ3」保有者となります。今回の移行処置により、日本スポーツ協会ラグビーフットボール「コーチ3」をお持ちでない状態でA級コーチ（暫定）とS級コーチになられる方は、日本スポーツ大会で監督を務めることはできません。

以上